

自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース
／今田 雄三

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

これまで学校精神保健の実践力の醸成を目的に、特に大学院後期授業「学校精神保健学演習」において自験例を教材として用い、受講生自身が当事者意識を持って事例のアセスメント、対応方針などを行えるようになることを目指した授業実践を行っており、一定の成果を挙げたと考える。ただし、本来演習を開始する以前に習得しておくべき知識の不足や、知識に基づいて推論し優先順位や状況判断までを含めた真に現場で活かされる実践能力の獲得にまで至らない受講生の存在も伺われる。よってH23年度においては大学院前期授業「学校精神保健学研究」の内容を全面的に見直し、支援者としての当事者感覚を喚起し、支援の実践を支える知識の習得の重要性を十分に自覚して受講生が学べるように工夫する。また、習得した知識を元にしたアセスメントや対応方針の組み立て方についても具体的に述べ、連続する大学院後期授業「学校精神保健学演習」において当初から当事者感覚を持って、一定の水準で事例を検討することを可能にしたい。

2. 点検・評価

大学院の前期授業「学校精神保健学研究」の授業内容を全面的に見直し、支援者としての当事者感覚を喚起し、支援の実践を支える知識の習得の重要性を十分に自覚して受講生が学べるような工夫を実施した。また、習得した知識を元にしたアセスメントや対応方針の組み立て方についても具体的に述べた。その成果を踏まえて大学院の後期授業「学校精神保健学演習」では、受講生が当初から学校精神保健に関する一定水準の知識に基づいて事例を検討し、適切なアセスメントを行い、具体的な対応方針の組み立て方などについて演習することが出来た。これにより学校現場における精神保健活動の実践に直結した授業を実施し得たものと思われる。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

○授業を通して学校精神保健の実践力の醸成を図ることを目標とする。そのための具体的な方法論として、①授業には独自に作成した資料を用いる、②授業には視聴覚機器を活用することで受講生の興味を喚起し、理解を助ける、③授業には事例検討を取り入れる、④授業の提出課題に対しては、教員からのフィードバックを十分に行う、の4点を徹底して実行する。また今年度から⑤授業で身につけた知識を実際の場面で即応的に活用できるための演習をくり返し行う、ことも導入していく。

○臨床心理士を目指す大学院生、および児童生徒の精神保健の実践に取り組む現職教員が精神科医療の実践に触れ、体験を通して正しい知識を習得出来るように、地域の医療機関と連携し、精神科病院での一週間の短期見学実習の機会が得られるように努める。また毎週一回・継続して研修できる長期実習が行えるように努める。

2. 点検・評価

○年度目標で挙げた5つの具体的な方法論について、既に中間報告で述べた通り①～③については大学院前期授業「学校精神保健学研究」において実施した。さらに④授業の提出課題に対しては、教員からのフィードバックを十分に行う、⑤授業で身につけた知識を実際の場面で即応的に活用できるための演習をくり返し行う、については大学院後期授業「学校精神保健学演習」においてほぼ授業で毎回実施した。
○地域の医療機関と連携し、3つの精神科病院で一週間の短期見学実習を8月および3月に実施し、計32名が参加した。また毎週一回の長期実習については、5月より4つの医療機関で実施し、計10名が継続して参加した。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

○臨床心理士を目指す大学院生の養成における精神保健の知識の習得、事例研究、および描画法やコラージュ法を用いた心理査定や心理面接技法の習得に関連した研究を行う。
○平成23年度においては、引き続き上記に関連したデータの収集を行うとともに、これまでの実践内容やデータの一部に基づき、学術誌または学内紀要論文への投稿を目指す。

2. 点検・評価

○臨床心理士を目指す大学院生の養成における精神保健の知識の習得、事例研究、および描画法やコラージュ法を用いた心理査定や心理面接技法の習得に関連した研究データの収集を継続して行った。
○臨床心理士を目指す大学院生の養成における精神保健の知識の習得に関する総説論文(単著)1件と、子育て支援に関する実践研究に関する論文(共著)1件を学内紀要論文に投稿した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

○委員会活動(大学機関別認証評価作業部会委員会、鳴門教育大学振興会、鳴風会幹事)を通して大学運営に関し誠実に取り組む。

2. 点検・評価

○鳴門教育大学振興会、鳴風会幹事の活動を通して大学運営に関し誠実に取り組んだ。なお、大学機関別認証評価作業部会委員会については本年度中特に業務が生じなかった。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 徳島県精神保健福祉協会教育研修委員会委員として、県民一般を対象とした精神保健に関する啓蒙活動を行う
- 徳島県立徳島学院の嘱託医として、児童生徒の指導に関して教職員との連携を図る。

2. 点検・評価

- 徳島県精神保健福祉協会教育研修委員会委員として、県民一般を対象として2月13日に「子どものトラウマ」をテーマに徳島県精神保健福祉協会研修会を開催した。
- 徳島県立徳島学院の嘱託医として、月1回現地に赴き、児童生徒の指導に関して教職員との連携を図った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- 教育に関して、1年次2名、2年次3名の大学院生に対し課題研究を担当したのに加え、本学の心理教育相談室で面接を担当する大学院生を対象とした面接指導基礎実習(1年次)8名、および面接指導実習(2年次)8名に対しても、課題研究に匹敵する綿密な指導を原則として毎週、グループおよび個別に実施し、高度な実践的資質を有する大学院生の養成に貢献した。
- 来年年8月に、第4回日本コラーージュ療法学会第4回大会を本学に誘致することとなり、大会長として準備委員会を立ち上げ、大会準備に当たっている。